

◆ 激励の言葉 1 ◆ 「移民牧会者の使命」

KPCA 西北アメリカ神学大学 学長 ビョンインボク 牧師

神学院運営委員会

学 院 長 林東琥

学 生 支 援 康泰榮

教 務 堀江佳奈

人 材 育 成 洪永淳

神 学 特 講 蔡連培

図 書 管 理 廉元一

通 訊 嚴善一

事 務 朴セツビョル

高秉煜

有田喜絵

嚴政

JMTS 日本宣教神学院だより

発行人 林東琥

編集人 堀江佳奈

有田喜絵

嚴政

目次

激励の言葉	1-3
前期授業の恵み	4
神学特講の恵み	5
JMTS サポート要請	6
編集後記	7



原稿を頼まれた時、短い紙面に何を書けばいいのかわりながら 50 年の牧会を終えた自分を顧み、移民牧会者である私たちの心からやるべきことを整理しようと思った。

H.W.Palmer は牧師の十戒として①羊を盗むな②告げ口するな③前任者に対して誠実になりなさい④後任者に配慮を配りなさい⑤聖職者の權威をもって生活しなさい⑥良い市民になりなさい⑦すべての時間を自分の使命に使いなさい⑧報酬に関係なく奉仕しなさい⑨婦人たちに対して牧師の特殊な責任を覚えなさい⑩家庭で成功しなさいと言った。

韓国を代表するハンギョング牧師は牧会者で成功する牧会者になるための教訓を次のように述べた。

1. 失われた羊を探しますが、他人の羊は盗まないこと。
2. 新しい教会を建てることに力を果たすが、既存教会から分裂をしないこと。
3. 新しい礼拝堂の建築はいいことであるが、隣の教会の下に建てないこと。
4. 反対する教会に無理やりに止まらず、歓迎する教会に無理やりに離れないこと。
5. 呼ばれた牧場で忠誠を果たして、他人の垣根を望まないこと。
6. 信徒の家に訪問する時、しっかり目的をもって訪問すること。
7. 他人の秘密を漏洩しないこと。
8. 金銭取引を明らかにすること。
9. 男女交際を公明正大にすること。
10. 教職者共にねたまないこと等である。

信徒を教えるとして勝手に叱責し、癖を治すために權威をふるまうことは決して良いことではない。牧師としてすべての間違いに対して責任を取ることができない人にならなければならない。牧師は教会のすべてのことを自分の責任として担うべきであり、靈的生活で力を果たして信徒の模範になるべきである。説教のための研究と自分の成長のための知的涵養のために続けて本を読み、祈り、黙想を通して靈的に成長すべきである。自分の成長が止まる時、教会の成長も止まるようになる。また自分の家庭で良い旦那、父親になって家族に果たすべき義務をよく担うべきである。物質に心を奪われず、誰にとっても金銭のやり取りが聖くなり、紳士のような姿を保つべきである。聖職者として常に適切な服装と端正な容貌を保つべきである。

牧師は信徒たちの中で生きるべきである。従って、倫理規範の中で尊敬される者になることが成功である。Homer Kent 博士は次のように 13 項目を提示した。

1. 牧師と信徒との交際は偏屈になってはいけない。
2. 牧師は自分に委託されたことに対して信頼を見せること。
3. 牧師は信徒たちに対して態度が傲慢になったり、独裁になってはいけない。
4. 牧師は女性たちに対して自分の行動を注意すべきである。
5. 短い時間で信徒たちのすべての悪い習慣を正しくすることはできない。忍耐は牧師が持つべき重要な徳目である。
6. 牧師は信徒たちと個人的に親密な関係を示すために名前を呼ぶような行動は自制すべきである。神様の教会で尊厳性は維持され、保護されるべきである。
7. 牧師は怒りを出したり、不快な感情を露出することに気を付けなければならない。移民牧会をしなが

らよく経験することである。たまに声をあげたり、不快な感情を露出することで、信徒は従わないことがある。重んじることが必要である。8. 牧師は教えと説教で確信をもって伝え、真実で、愛する心で行うべきである。9. 牧師は出席しない人たちの過ちや、彼らの不参加に対して、参加する信徒たちに向かって叱責することがあってはならない。講壇でのミスは相手を間違えて定めたことにある。10. 牧師は講壇で自分に害を与えた人たちに対して非難をしてはいけない。講壇では神様の御旨、つまり委ねられた神様の御言葉を伝えるところである。11. 牧師は自分の時間を活用することにおいて教会の前で真実にすべきである。12. 牧師は特定の信徒に特別な恵みを受けたり、債務関係になってはいけない。平衡を保つことが難しくなる。13. 牧師は自分が忙しいと言ってはいけない。牧師の使役が忙しいことは当たり前である。しかしこれを表すことによって信徒たちに関心を注いでない印象を与えることが間違いである。不平不満として聞こえるからである。

信徒の立場では必要以上に期待して、落胆する信徒もいる。牧師も人間であるので、このようなことが起こってはいけない。しかし神様に呼ばれた僕としてイエスキリストの働き人として、平信徒が望んでいる牧会者像を常に考えるべきである。一般的に次のようである。

1. 人格者としてのイメージ: 牧師の前に人格者にならない。正しい人になる意味である。常識的で正常な人格者であることを牧会者に要求をしている。説教して、教えて、訪問して、相談して、祈る前に水と聖霊によって生まれ変わる経験を持たなければならない。言葉

に真実性をもって、行為に主題性があり、牧師の職分に誠実な真実性を持つべきである。

2. 教育者としてのイメージ: 牧師は導き者であり、教育者である。平信徒たちを訓練し教える者である。牧師は書齋を愛し、本と友達になるべきである。平信徒は常に勉強する牧師から学ぶことがある。平信徒は勉強する教育者の前でもう一つの人格を学ぶことができる。

3. 預言者としてのイメージ: 牧師に未来が見える先見の明が必要である。現勢を把握し、正しい洞察力が必要である。牧師の説教は常に生活に向かい、この世で生きる平信徒たちに生活のビジョンを与えるべきである。牧師は祈りの結果として得た神様の御言葉を宣言して、勉強し、研究して準備した自分の説教を自ら実践すべきである。どれほ

ど難しいことであるか? 牧師は説教を通して自分がまず恵まれるべきである。それは必ず神様の啓示を受ける説教でなければならない。それ故に牧師は預言者としての職分を果たすことができる。

4. 牧会者としてのイメージ: 牧師は牧者であり、平信徒はその保護と導きを受ける羊である。牧師は手に常に杖が用意されるべきである。一匹の羊を探す労苦と努力と犠牲が必要である。罪人であっても牧師に近づくことができる必要がある。

5. 友達としてのイメージ: 牧師は牧師の前に真の人間になるべきであり、真実な人間関係を持つために平信徒と友達になるべきである。牧師は常に自分が罪人であり、人間であることを認めるべきである。平信徒のない

牧師は存在できない。牧師と平信徒の間を縮めて疎通ができる友達にならなければならない。

6. 現代人としてのイメージ: 牧師であればいつも古い、変わらない、遅いなどを思い浮かびやすい。それゆえ牧師は自分の使命を果たすために、現代人としての資質と素養を用意すべきである。この時代に“私はパソコンが苦手”だと言ったら、だれがその人に従うか? 古いものを大胆に抜かなければならない。現代語を使って若者たちと疎通するべきである。古い聖書の言葉を現代人の言葉、この時代の言語で簡単に表現する必要がある。現代教会は現代的牧師像を求めている。現代を理解する牧師を求めている。現代の特徴はスピード、革新、改革である。牧師はすべての面において創造的なアイデアをもって確信的な、創

造的な思いや、預言的な素養をもって未来的、進取的な行動を持つべきである。牧師は現代に生きているので、現代の中で自分の生活と責任の意味を見つけるべきである。

7. 牧師としてもイメージには趣が必要である: 趣というのは芸術である。牧師は芸術的な美に対する感覚が必要である。趣は技巧である。教えることに技巧と楽しさが必要である。説教も楽しくできるテクニックが必要である。牧師のイメージは趣を持つことによって平信徒に良くアピールすることができる。その趣、技巧と才能は練習と訓練が必要である。趣は幅広く、深さのある牧師の周辺には趣のある信徒たちが従う。イエス様はとても趣のある真の牧者で、指導者で、友で、教育者出、現代的な牧者であった。(→6p に続く)

◆ 激励の言葉 2 ◆ 「あなたは新しい被造物です！」

つくばキリストの愛教会 蔡連培 牧師



「キリスト者は罪人か、義人か？」

この質問は、筆者の信仰の道程において最も重要なものであった。宣教の働きの中でも、多くの若いクリスチャン達が、罪責感と律法主義に圧迫されている姿を見ながら、私はずっとこの質問を心に留めていた。結論から先に言うと、聖書に書いてある通り、クリスチャンはキリストの中で「本質的に義人」である。

これを理解するためには、「キリストとの連合」の福音をまず理解しなければならない。「キリストとの連合 (In Christ)」は、使徒パウロが聖書を書くにあたって164回も使うほどの重要な真理である。ローマ 6:4-6によると、「私の古い人 (the old self: イエス様を信じる前に自己中心的に生きていた自我) がイエス様の

十字架と連合され死んだと語っている。また、イエス様の復活と連合し、「私は新しい人 (the new self: イエス様を主人とする、義と平和と喜びの中で生きる新しい自我)」に生まれ変わったと語っている。したがって、クリスチャンはキリストの中で「新しい被造物」といえる (Ⅱコリント 5:17)。新しい被造物はキリストの中で「神の義 (the righteousness of God)」である (Ⅱコリント 5:21)。身分が変わっただけではない。新しい本性を持つようになったのである (Ⅱペトロ 1:4)。クリスチャンはキリストによって、永遠の命の中で支配するものである (ローマ 5:21)。

もちろんクリスチャンは依然として弱い体 (body) を持っている。

私達は物理的な体を悪いものとして否定的に見てはいけない。クリスチャンにとって体は「神の聖殿」である (Ⅰコリント 6:19)。問題は、「すでに死んだ古い人」が残した罪の習慣である「肉 (flesh, sinful nature)」が、この体の中にあるということ

である。ここで大切なのは、私達の最も深いところには、罪と死を破り、勝利を収めたイエス様がいるという事実である。

筆者は、教会開拓初期頃、働きのために1台の車を買ったことがあった。

ある日から突然、悪臭がするようになった。芳香剤を使っても効果がなく、匂いは日に日に酷くなっていった。一週間ほど経ってから、トランクを開けた時、腐った豚肉の塊が瞬間的に目に入ってきた。先日、妻が買ったまま、取り出すのを忘れていたのであった。悪臭の元はこの豚肉だった。悩む余地もなく、すぐにそれを取り出し、ごみ箱に捨て、同じ場所に芳香剤を置いた。匂いはしばらく残っていたが、永遠に消えた。

古い人とは、まるで腐った肉のように、罪の悪臭を続けて放つ存在である。人がどんなに善い行いや宗教的な努力をしたとしても、罪の悪臭がなくなることはない。しかし、イエス様は十字架において、その「古い人」を釘付けにしてくださったのだ。ここで考えてみたいことは、先の話

のように、腐った豚肉を捨てたとしても、匂いまですぐに消えるだろうか。そうではない。匂いはしばらくトランクの中に残るのである。しかし、この匂いは「すでに死んだ古い人が残した罪の匂い」であり、新しい人の本性から出る匂いではないのだ。キリストの中で私達は新しい本性—キリストの香りを持つ者となったのである (Ⅱコリント 2:15)。キリストの中で、古い人が死に、新しい被造物となったことを信じ、私達の中に新しい香りとして来られたキリストに集中し、聖霊充滿にされるならば、その罪や罪悪感の悪臭も徐々に消えていくだろう。聖霊様の中で、神の国の本質である義と平和と喜び、そして自由と愛とを体験していただく (ローマ 14:17)。

あなたはキリストの中で新しい被造物になったのだ。

どんな罪悪感、絶望、落胆、中毒があっても、キリストの中から自由でいられるのだ!

これが福音だ!

使役者は、この「新しい被造物の福音」の力を知り、体験し、宣べ伝えるものである。

◆ 激励の言葉 3 ◆ 「キリストの心を抱け」 フィリピン人への手紙 2:5-11

ヨハン宣教会理事長 洪永淳 牧師



聖徒の連合、教会の連合が広がる場所にはいつも復興が訪れました。宣教の地にも三位一体の神様のような連合が行われるならば、荒れ野のような日本の地にも復興が到来すると信じます。

三位一体の神様から連合のモデルを見つけることができます。神様が成し遂げられた連合を人である私たちが真似したとしても成し遂げることができるでしょうか？しかし、神様は私たちの救いのために施された愛と恵みと能力を注いでくださり、イエス様の中にとどまらせてくださり、注がれる聖霊、神の導きを受けようとしてくださるので、完全にはできなくても、連合を実現することができるかと信じます。

5つのパンと2匹の魚の奇跡は小さなお弁当を神様に捧げたことから始まりました。水の上を歩いた奇跡は神様を見ているところで起こりました。連合も神様のようにすべてを置いて、仕えて従順すれば、成し遂げられます。

日本宣教にはこの連合の力が必要です。教会が一体となり、ヨハネの宣教師や教会が互いに献身して連合を作り、地域ごとに建てられた日本の現地教

会と牧師たちとの連合が行われれば、日本宣教は十分に成し遂げられます。それはこの連合により無牧教会、神学生のいない神学校と教壇が回復することです。

連合を妨害する核心とは、自分を中心だと思ふ意識、人が中心となることから出てきます。キリストの心を抱くと、自己中心性も出てきます。

フィリピン信徒への手紙 2 章でパウロは"キリストの気持ちを抱きなさい"という言葉の中に連合の秘密を教えています。連合はキリスト中心でなければなりません。

第一に、主は先に同等となったことを置かれました。

権利と資格と権勢を神様のようにならねば、教会は世の中の塩となり光となります。教会は、争いを起こす代わりに相手の目線を持つため、理解が豊かになり、仕えるようになります。問題は手放さない私たちの身勝手さです。イスラエルの歴史は私たちにとって教訓になります。選ばれた民であっても破滅されるのです。聖なる者が身勝手さを全部捨てて主を呼ぶと、主の信仰が回復されます。今日私たちも苦難を通じて利己的信仰が崩れ、キリスト信仰が回復されます。へりくだって進み、キリストを高めるようになる時、神様はこの人を通じて連合を成し遂げられます。

第二に、主は僕の形を持ちました。

教会は福音を伝えて聖なる心を守って真理を守るため、僕の

姿勢で使命を果たさなければなりません。私たちは真理である神様の僕、真理の中で自由になる魂の僕とならなければなりません。神様が罪人になった私たちを探して来てくださったように主の僕となった者は、この世の中の罪人に向かって負担感を持って戦わなければなりません。これが教会と僕の召命であり使命です。神様は自ら仕えてくださり、仕える者を大きい者としてくださいました。私たちが伝えようとしている御言葉つまり真理が人々を自由させます。御言葉に対する深みのある研究と大胆な宣言は僕であることが必須です。この確信がなければ、盲人が盲人を率いることとなります。聴衆あるいは仕えなければならぬ羊の群れは羊飼いが必須の要件です。真理を知っても伝える対象がなければ、何もありません。聴衆を探し出し、彼らが御言葉を聞けるように助けなければなりません。今日の人々は自分が聞きたいことだけ聞いている傾向があります。これは僕の影響力と関係します。宣言される御言葉だけでなく、見せることのできる御言葉の僕の人生が必要で

第三に、神様は死ぬまで服従なさいました。

福音には十字架の精神がこめられています。それは言葉だけではないのです。伝える者の人生も含まれます。ただで受けたことを私のもののように考えず、神様の善良な意志に従って喜んで出して差し上げていくだけです。賜物も体も物質も生命もこれに該当します。死ぬほどの忠誠を誓うのです。真理と妥協しないこともこれに該当されます。御言葉どおりに生き抜いて

証拠を持って証人となる必要があります。何より十字架の精神は隣人のための献身です。主にとって捧げるべき魂が私の十字架になります。ペトロの義母の熱病の問題を通り過ぎず、落胆と挫折に再び漁師に戻った弟子たちを尋ね、会って回復するように助けたことも、イエス様です。仕えることは捧げることです。私の時間、お金、体、大事なものをひとつの魂の上に出して置くことです。

キリストの心が充滿している限り、連合と復興は必ず成し遂げられます。

教会が一体となったこともキリストの心にかかっており、夫婦の連合もここににかかっています。

教会が個別主義に転落してしまえば、日本宣教の未来はありません。キリストを置いて献身されたように耐えた時、教会が回復され、力を得て日本の地に変化が起きます。

日本の地に向けられた神様の心が僕として献身する皆さんに溢れていることを祈ります。今私に与えられた教会に向かってキリストの心を実践してみてください。小さな実が日本宣教の実りになります。もちろん、世界宣教も十分に実現することになります。

◆前期授業の恵み 1◆ JMTS23 期 渡部 惇 (横浜キリスト教会)



ハレルヤ！主の御名を賛美します。この場で前期授業の恵みを分かち合うことができることに感謝します。私は神学校2年生ですが、1年目に続いてたくさんの発見、気づきを主は与えて下さいました。その中で特に分かち合いたいことが二つあります。

一つ目はテモテ指導者訓練会(牧会論)の授業です。「神の民の面倒を見る」というタイトルをもって、導かれる先生と一年生から三年生までの神学生で、聖書の御言葉からどのように魂や

信徒たちに接し神様のもとに行くように助けるか、一緒に考えながら進む授業ですが、私は自分の魂へのケアに対して自信がなかったため、当初は授業を受ける時は不安を感じていました。しかし授業の中で分かち合った御言葉で、イエス様がまず私たちの良い羊飼いであり、私たちのために命を惜しまずご自分を捧げられた姿を黙想しました。そのことを通して、主が用意された魂にも同じ恵みが注がれていることを知り、魂のケアは私だけがするのではなく、主なる神様と一緒に働いていくものだと思ふことができ、悔い改める恵みがありました。また、先生や同じ神学生たちの現場での体験を分かち合い共に祈りあう時間を持ちましたが、自分の学びや動きにも

生かせることがとても多く、大いに励まされました。

二つ目は礼拝学の授業ですが、この授業では新しいビジョンを頂きました。この授業では私たち神の民がささげる「礼拝」について、神学的に考察しその意味を学ぶ授業でした。その中で、礼拝の意味を指すワーシップと言う言葉が「価値あるものとみなす」という意味であり、礼拝は自分の全人格で創造主である神様を褒めたたえ、賛美することなんだと悟りました。また、その礼拝は主日だけではなく、毎日の生活の中でも捧げることが大切であり、また自分が今いる場所が礼拝の場所となり、主は礼拝を受けるのを願っておられることも聖書から見る事ができました。そのことを通して私は、

今キリスト教が少ないこの日本でも各地で、真心をもって主を礼拝する民、そして教会が立てられるように祈り、その働きに携わっていきたい心が与えられました。

以上の授業だけではなく、前期の授業ではたくさんの恵みをいただきました。今年は新型コロナウイルスの影響で、対面の授業の頻度は減ってしまったのですが、神学校では以前からZOOM やスカイプで授業を配信していたため、スムーズにオンラインでの授業に対応できました。先生をはじめ、授業のために準備してくださった方々や神学生、何より私を励まし、強められる父なる神様に感謝します。後期の授業も続けて勉強に励むように祈っていきたく思います。

◆前期授業の恵み 2◆ JMTS24 期 帖佐光江子(つくばキリストの愛教会)



ハレルヤ！主の御名を褒め称えます！主が与えてくださった恵みを証できるこの機会に感謝します。前期講義を終え、神様が私たちに与えてくださった「救い」の計画の恵みと神様の愛をより深く知るようになりました。同時に、神様に対して大きな誤解があったことにも気づかされ、悔い改めと共に、聖書に書いてある通りの神様の御姿を知ることができるよう、祈りと御言葉、また礼拝に集中したい心が与えられました。

きっかけは、「礼拝学」の中で、礼拝は喜びで捧げるものであると聞いた時でした。「私は喜びをもって礼拝を捧げてきたらう

か」ふと頭の中をよぎりました。そして、今までの礼拝を喜びで捧げる、というよりは、礼拝は神様が求めておられるから捧げて当然のものだ、との認識でしか捧げていなかったことに気づかされました。結局、礼拝を義務的に捉えてしまっていたことに気づかされました。喜びで礼拝を捧げてこなかったことを悔い改め、主日礼拝を迎えると、神様が私たちに与えてくださった「救い」の御業の恵みが心に押し寄せられました。神様の御前に、傲慢にふるまっていた罪人が、ただ神様の慈しみ、憐れみによって、イエス様を通して神様の子どもとされたこと、神様の国の民となり、神様を礼拝し、神様を知る恵みが与えられていることに涙が止まらなくなりました。神様の御前に「罪人」ではなく、完全に新しく創り変えられた「義人」として神様の御前に立つことができる喜びを感じました。礼拝が、「救い」をもたらしてくださ

たイエス様を賛美する場として、喜びで捧げるものであることを心から知る瞬間となりました。以後、共同体で捧げる礼拝に身を置くことができること自体に感謝が溢れ、毎回の礼拝に喜びと感動が満ち溢れました。また、牧師先生が語ってくださる御言葉も心から「アーメン」と受け入れることのできる自分を発見しました。

また、この救いを与えてくださった神様の慈しみ、憐れみについて、「テモテ訓練」の「神様はご自分の民を訪ねられる」という箇所を通して深く知るようになりました。アダムとエバが罪を犯した時、神様は自ら二人に近づいてこられたことを受け、私は神様の心に着目するようになりました。そして、神様はこの時二人を断罪するために近づいたのではなく、罪を赦すことを前提に二人と正直な心の交わりをしたく近づいてきたことに気づかされました。今まで、「どこにいるの

か」「食べたのか」「何ということをしたのか」その神様の御言葉を、罪を追及されるような、責められるような感覚で捉えていたことに気づかされ、私は神様を、罪を裁く方である認識のみで捉えていたことに気づかされました。しかし、神様は、私たちの父として、私たちを憐れみ、罪を許す心で私たちに接しておられるお方です。そのことに気づかされた時、神様の語った一つ一つの言葉がとても愛にあふれた温かいものであることに気づき始めました。真に愛のお方であられる神様を、厳しい方であると認識してしまっていたことを心から悔い改めました。そして、それ以後、昔は厳しく感じていた御言葉が、実は神様の愛に満ち溢れた言葉であることに気づかされていきました。私の心も神様の御前により素直になり、神様の愛をより深く知るようになりました。神様が目を開かせてくださったことに感謝を捧げます。

◆夏季神学特講◆



今年の夏の神学特講は、新型コロナウイルスの影響で、8月31日～9月4日にかけて、Zoomで行われました。

今回の講義では、河成海直教師と朴祥栄宣教師をお招きし、「組織神学 救済論」および「モーセ五書」の授業が行われ、学生、教職者、スタッフを合わせ、18名が参加しました。

今回の神学特講では始めてオンラインで行われましたが、講師先生の素晴らしい講義に恵まれ、充実した学びの時間を持つことができました。情熱を持って授業を行ってくださったお二人の先生方と、奉仕および準備に仕えてくださったスタッフの方々に感謝いたします。

◆夏季神学特講の恵み◆ JMETS21期 胡天記 (ヨハン CHINESE キリスト教会)



お世話になります。JMETS21期の胡天記です。今回の神学特講の恵みを分かち合いたいと思います。コロナのせいで今回の神学特講は初めてオンラインで受講することになり、多少不便なところもありましたが、いつも仕事のため一部しか参加できなかった私にとって、初めて全日程参加することができました。そのおかげで、講義の内容もいつもよりまとまって聞けましたので、たくさんの恵みを頂く経験になりました。

神学特講にて、一番恵まれたのがモーセ五書を通してイエス・キリストにおいて救いの完成を発見することでした。モーセ五書、特にその中のレビ記、民数記と申命記は、多くの聖徒にとって読みにくいイメージがあります。何故ならたくさん律法や捧げ物を捧げる方法につ

いての記述があるからです。その内容は現在の我々の生活にあまり関係ないように見えますので、正直に言うと、私も今までこの3つの書より感動を受けたことは少なかったです。

しかし今回の授業で、一番中心となったのが、モーセ五書をイエス・キリストへの啓示と連携することでした。今まで自分に関係ないような内容は、先生の講義によって、新約との関連を見つけれ、それはイエス・キリストを啓示する、いや、寧ろ全てがイエス・キリストへの啓示であることを気づいて、神様は始めから救いを成就し、経綸を完成させ、偉大な愛と力があるお方であることを一層深く認識できました。

その中でも特にレビ記の中の5つの捧げ物について恵まれました。

焼き尽くす献げ物は五つ捧げ物の中で一番重要であり神様との関係を維持するための捧げ物であります。今でも、イエス・キリストは我々の焼き尽くす献げ物となり、キリストにおいて

我々が神様と最も深い関係を持っています。

穀物の献げ物の供え物は神様に捧げられた者がいかに神と人に奉仕するかという血のない捧げ物であります。穀物の献げ物は血の捧げ物ではなく、血の捧げ物でなければ、神に受け入れられるものではありません。それは、私たちが十字架上のキリストの中にいなければ、決して神を喜ばせることができないことを示しています。

和解の献げ物と穀物の献げ物は、どちらも奉仕の儀式でした。穀物の献げ物は神と人間への奉仕に焦点を当て、和解の捧げ物は神との和解に焦点を当てています。現在の我々も「信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ております」ローマの信徒への手紙5章1節。

贖罪の献げ物とは人間の原罪、つまり、元々の祖先に由来する罪深い心と罪深い性質についてのものであり、それはイエスの贖罪によって取り除かれます。贖罪の献げ物を捧げるの

は、自分が罪人であるからであり、自分のすべての罪を贖うために贖罪の献げ物を捧げるのです。

贖罪の献げ物は原罪のためですが、日常生活の中にはまだ罪があるので、頻りに十字架に行って罪を告白しなければなりません。その日常の罪のために捧げるのが賠償の献げ物。イエス・キリストもまた我々のすべての罪の代価を贖うため、この世に来られたからであります。

五つの捧げ物は我々が神様の間にある距離、我々が神様の間にある切断を意味します。それほど罪を犯したから、それほど捧げ物、それほど行いを行わないと、人間は神様との関係が維持できません。しかしそのすべての捧げ物は全部イエス・キリストにおいて、神様ご自身において贖ってくださいました。今までこの五つの捧げ物は私の印象に残らなかったが、今回の神学特講を通して深くその意味を理解できたことに感謝しております。

◆ 激励の言葉 1 ◆ 「移民牧会者の使命」 (続き)

以上の内容から私たちの移民牧会者として追及すべき教会は次のようなことに核心を置くべきである。

1. キリストをどれほど愛しているか？イエス様のアガペが教育を決定するような教育者にならなければならない。
2. 私たちの教会はすべて聖書に基づいて行わなければならない。現代科学が開発した方法論を採用するが、聖書に根拠を置くべきである。
3. 教会は掲示から出発して、同時に私たちの生活の現場を神学化する知恵を取得して行うべきである。
4. 教会はからだと心と霊を区別する分離主義的な思考ではなく、ヘブライ的、全人格的人間理解の上、行うべきである。また、伝統的な神学思想を持つべきである。
5. 今日の教会は数千年間、神様の民たちが実行してきた教会の歴史的な流れと一致する歴史的な連続性を持つべきである。
6. 正しい聖霊運動で今日の教会は教育者中心教育からすべて神様の人たち一人ひとりが神様からいただいた賜物をもって相互奉仕する神様の民の教会に転換すべきである。従って、神学校もこのような教会を実行できる牧会者を養成し、育成することを目的として立てるべきである。

最後に、コロナウィルス時代に生きる私たちに襲ってくる試練をどのように乗り越えることができるか？特別に礼拝に対する牧会者の態度が確信をもたなければならない。日本の状況を知

らないが、韓国とアメリカの状況はますます深刻なところである。礼拝に対する政府の政策に教会が率先すべきではないか？などの話しも多くなっている。しかし、私たちの命のような礼拝を守ることをそのように軽く見ることができない。今まで教会が国を愛さず、民族のために祈らず、政府に反対してきたことがあるのか？パウロはガラテヤ信徒への手紙 1:10「今私は人に取り入ろうとしているのでしょうか、それとも、神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのでしょうか。もし、今なお人の歓心を買おうとしているなら、私はキリストの僕ではありません。」と言った。人を喜ばせ、人の目を意識して行動したらキリストの僕も教会でもない。ペトロとヨハネは公会からナザレのイエスの名で絶対伝道してはならないと言われたとき、きっぱりと「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、ご判断ください。」使徒言行録 4:19と言った。この使徒の權威が今日牧会者たちに必要なものである。集会を禁ずることを少数の人たちと共にすることとして簡単に解釈してはならない。韓国の場合、数多くの言葉遊びで装った文章が回っている。このような言葉は現場で礼拝を熱心にささげる者たちに懐疑を保つようにさせ、結局礼拝を崩壊まで導く結果を招くことになる。出エジプトの目的は祭司であつた。

三日間歩いて、神様にささげものをささげると言われた。礼拝を喜ぶ神様は紅海を渡ってすぐささげものをささげると言われなかった。三日間歩いて、決まった場所でささげることが明らかに言われた。祭司が出エジプトの目的であるように、礼拝は救いの目的である。ですので、礼拝に命をかけるべきである。なぜなら礼拝の目的である救いのためにイエス様が命をささげたからである。また、礼拝は明らかな場所と形式が必要である。私たちは他のもので教会を非難することは耐えられないが、礼拝を妨げたり、礼拝を止めることは耐えられない。この時代において甘い言葉で礼拝崩壊を招くようなことは決してあってはならない。歴史の中で礼拝を止めたり、教会を閉めた政権や政府は歴史の中で裁かれ、長く続くことはできなかった。対面礼拝を禁ずることを絶対美化するようなことを許してはいけない。いつも、どこでも神様を見上げるために教会に出席しなくても、対面礼拝をしなくていいということはあくまで妥協である。私たちは主日礼拝だけでなく、毎日礼拝の生活を生きることは当たり前である。しかし、礼拝は対面することである。神様の御顔と対面し、信徒たちが互いに対面することである。信徒の対面はとても重要な礼拝の要素である。信徒の交わりがどれほど重要であるかを使徒信条でも聖徒の交わりとして告白するほど礼拝と

信徒の生活で重要なことである。神様は申命記 12:13-14で「あなたは自分のよいと思う場所で、焼き尽くすいけにえを献げないように気をつけなさい。ただ、主があなたの一つの部族の中に選ばれる場所で、焼き尽くすいけにえを献げ、私が命じることをすべて行いなさい。」と言われた。それゆえ、礼拝の場所と形式を絶対軽んじてはならない。そして、映像礼拝を通して礼拝をしたとし、それを満足することは真の礼拝であると言えない。礼拝出席が不可能な患者や、移動中に映像を通して礼拝することはやむを得ない場合である。それを特殊な状況であつて、特殊性を普遍性として見るがあつてはいけない。今から 40-50 年前アメリカで TV 説教が流行っていた。さらに神学校でも映像説教、講義があつた。しかし映像礼拝が流行ってから、アメリカの教会は急速に衰退された。礼拝の衰退は教会の衰退につながる。どのような場合であつても対面礼拝を中断することはいけない。日本の同役者である皆さんが日本の教会を責任をもって進み出る祝福があるように心から願う。

アメリカ、シアトル大きい愛教会
元老牧師、KPCA 西北アメリカ
神学大学 学長
ビョンインボク 牧師
(Rev. In Bok Byun)

◆ JMTS サポート要請のお知らせ ◆

JMTS 日本宣教神学院は主の恵みと導きの中、多くの祈りと支援により支えられてきました。これからも神学院のますますの発展と、より良い訓練・学習環境を整えていくため、どうぞ皆さまからの暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 郵便振替口座 : 00260-9-89632
- 口座名義 : 日本宣教神学院(ニホンセンキョウシンガクイン)
(※各教会/個人で一口 1000 円から支援可能)

◆編集後記◆

今回、第5号の神学院だよりが発行され、皆様と神学院について分かち合える恵みに感謝いたします。今回は、アメリカシアトル大きい愛教会の元老牧師、KPCA 西北アメリカ神学大学院長のビヨンインボク牧師先生、つくばキリストの愛教会 蔡連培牧師先生、ヨハン宣教会理事長 洪永淳牧師先生より激励の言葉をいただきました。国を越えて支えてくださる祈りと、忙しい働きの中でも神学院のため尽力してくださる仕えに心から感謝いたします。

本神学院は、11名の運営委員会の先生方によって運営されています。また今回より、神学院の図書管理として、廉元一先生が加えられました。学院長:林東琥、学生支援:康泰榮、教務:堀江佳奈、人材育成:洪永淳、神学特講:蔡連培、図書管理:廉元一、通訳:厳善一、事務(卒業、入学関連含む):朴セツビョル、高秉煜、有田喜絵、厳政。以上11名の先生方がそれぞれの担当の奉仕において、瞬間瞬間、聖霊様の導きを受け、教会の頭となられ、また我々の主人となられたイエス様が伴ってくださいますよう、お祈りいたします。

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。

そして、エルサレムばかりでなく、

ユダヤとサマリアの全土で、また、

地の果てに至るまで、わたしの証人となる。

使徒言行録1:8



JR総武線「東中野駅」下車徒歩5分
 JR総武線「大久保駅」下車徒歩10分
 JR山手線「新大久保駅」下車徒歩15分

JMTS 日本宣教神学院
 〒169-0074 東京都新宿区北新宿 4-29-8
 TEL: 090-1152-0191 / 090-9142-9342
 E-Mail: kana.horie@gmail.com